

**FEMALE
CHORUS
RECITAL**

大阪外国語大学女声コーラス部発表会

賛助出演

大阪外国語大学グリークラブ

1968年11月28日(木) 6:30P.M.

大阪府厚生会館ホール



御挨拶

本日はお忙しい中をようこそおいで下さいました。創設四年目にしまして初めて学外発表会を催すことができますのも皆様の御支援あつてのことと部員一同深く感謝致しております。部員数こそ二十名足らずという小クラブではありますが、私達は響きをひとつにそして心をひとつにと精一杯の努力を重ねてまいりました。あまりにも未熟な演奏ではございますが、この発表会が当コーラス部の発展の大きなステップとなりますよう、皆様の御指導、御批判をお願い申し上げます。

最後に、本日の発表会開催に当りまして、こころよく賛助出演をお引き受け下さったばかりでなく並々ならぬご好意とご尽力を下さいました本学グリークラブの皆様並に各方面よりの御援助に部員一同心より御礼申し上げます。

大阪外国語大学女声コーラス部

発表会によせて

本学に女声コーラス部が創設されてすでに数年になると聞いていますが、今回初の学外発表会が催されることになりました。まだ部員数も20人程度のささやかな集まりですが、平素の練習を積んで、皆さまに聞いて頂きたい自信ができてきたことをうれしく思います。兄貴分のグリークラブも全力を挙げて応援し合同演奏による混声合唱も企画されていますし、今回の試みは十分に成功することを期待しています。しかしながら、女声コーラス部が今後順調に発展成長していくためには、学内のみならず広く大方の御支持、御鞭撻に頼らなくてはなりません。今夜御参会下さいました皆さまには、今後とも御後援を賜われますようお願いする次第です。

大阪外国語大学学長 金子二郎

So quickly has a happy inspiration become a firm tradition!
Only a few years have passed since the ambition to have a
girls' chorus became a reality, and now, thanks to the energy
and idealism of its founders and members, we can hope for a long
time to enjoy its sweetness and charm.

Austin Faricy
Professor of English

(ファリシー先生には、当コーラス部クラブソングを作詞作曲していただきました。
部員一同、心から感謝いたしております。)

—The Osaka Gaidai Girls' Chorus Club Song—
The song the Sirens sang is ours to sing again,
But not for destruction, not for grief and pain,
We sing a hopeful world of love and joy made free,
The Osaka Gaidai Girls' Chorus are we.

PROGRAM

I F.Mendelssohn作品

Veni Domine
Laudate pueri
Ave Maria

指揮 林 明子
ピアノ 波多野静枝

II 女声合唱曲

「女性の詩による五つの歌」

だれかしら
くりの実
母

木のは

とおり雨

「花のなかにねむる」

指揮 林 明子
ピアノ 波多野静枝

Ⅲ 賛助出演：大阪外国語大学グリークラブ

男声合唱組曲

「ぼくたちの挨拶」

こんにちは

あいします

だまっている時のブルース

おす

おやすみ

指 揮 安藤 雅之

Ⅳ “South Pacific” Choral Selection

Bali Ha'i

A Wonderful Guy

Younger Than Springtime

There Is Nothin' Like A Dame

Some Enchanted Evening

指 揮 番野三枝子

ピアノ 林 明子

Ⅴ 日本のうた

——グリークラブとともに——

荒城の月

冬のメロディー

ちんちん千鳥

この道

最上川舟唄

指 揮 梶江 靖史

曲目解説

メンデルスゾーン作品

劇音楽「真夏の夜の夢」、演奏会用序曲、交響曲で空想的な幻想や詩的な印象を絵画的に描写し、(「風景描写音楽」「標題音楽」などと言われています。)無言歌では歌詞のない歌をピアノに託して歌ったドイツ前期ロマン派のメンデルスゾーンには、混声合唱「早春」「うずいす」男声ならば「騎士の別れ」などの多くの世俗的合唱曲がありますが、教会音楽の合唱曲も重要なものです。幸福な充実した結婚生活を送っていたメンデルスゾーンは1841年ライプツィヒからベルリンにやって来てプロシア王のはからいでカトリック教会大聖堂音楽隊長となり、作曲・演奏活動を続けますがここで彼は数々の教会音楽をつくりました。本日演奏いたします“Veni Domine”“Laudate pueri”ともに女声3部で書かれています。

“Veni Domine”

「主よわれらの罪を許したまえ」と歌ったもので、雄大な始まりから動きのある8分の6拍子へ、そしてソプラノのメロディーが美しい3拍子、最後にもとの6拍子へと、メロディー・ハーモニー、対位法の自然な美しさに加えてリズムの変化が巧みです。

“Laudate Pueri”

「子供たちよ主の御名をたたえよ、主の御名はこの今より、世々に至るまで祝せられよ」と歌います。“Veni Domine”が懺悔の歌であるのに対し、この歌はいくぶん明るい内容で、テンポも速く一層動きがあります。特に斉唱部の伴奏が、分散和音となっていて効果的に流れてゆきます。下属調へ移調してからはテルツエットとなり三重唱がアダージオで優美に歌われます。前半ずっとフォルテで通しますが、移調後は終始ピアノで、ソロとコーラスのかけ合いとなります。すべてラテン語で歌います。

“Ave Maria”

メンデルスゾーンの未完成歌劇「ローレライ」からのものです。メンデルスゾーンは十六才の時「カマコの結婚」を作曲しましたが、これが唯一の彼のオペラで、晩年になって着手した「息子と異邦人」「ローレライ」とともに未完成のままで終わっています。

特に、彼の没年1847年に着手した「ローレライ」は、ソロあり女声あり男声あり混声あり、と変化に富んでいてロマンティックなオペラではありますが、本日演奏いたします「アヴェ・マリア」の他には「ぶどう収穫の歌」と第一幕の「終幕の合唱」があるのみです。

「アヴェ・マリア」は斉唱あるいは二部合唱の部分がほとんどですが『アヴェ・マリア』と歌う部分は四部となり、流麗なソプラノソロのメロディーが印象的に崇高に歌われます。

数ある「アヴェ・マリア」の歌曲の中でも、最も美しいもののひとつとして有名です。林英太郎作詞で歌います。

女性の詩による五つの歌

1964年に発表された大中恩作曲によるきわめて美しくしかも容易な小組曲です。歌っていて身近さ、優しさが感じられ、心がほのぼのとしてくるのは、四人の作詩者がすべて作曲者の親しい友人であるからでしょうか。いかにも女性の詩らしい五つの作品をここに御紹介いたします。

だれかしら

作詩 神沢利子

林をゆけば だれかしら

いつも わたしをみつめてる

木かげに匂う花かしら

それとも午後の木洩れ日かしら

わたしをみつめる やさしい め

野原をゆけば だれかしら

いつも わたしをよんでいる

ながれる 白い雲かしら

それとも そよぐ草の葉かしら

わたしを よnder やさしい 手

小川にゆけば だれかしら

いつも わたしにわらってる

岸べをわたる 風かしら

それとも ゆれるさざなみかしら

わたしに やさしく わらう声

くりの実

作詩 大野晴子

くりの実

くりの実

くりは静かないろをしている

くりの実

くりの実

くりは懐しいあじをしている

くりの木は

思い出をたべて

大きくなった

だから

まるく ふとった

くりの実は

思い出の

かたまりだ

母

作詩 高村民子

つつましき母のねがい
つねによき心もちつつ
つつがなく生い立ちませと
つつましき母のねがい
あな とおと

しずかなる母のねがい
しのびとう心もちつつ
しとやかに生い立ちませと
しずかなる母のねがい
うつくしき

木のは

作詩 高村喜美子

木のははねむっておりました
なにやらゆめみておりました
こずえでおめめがさめたとき
木のははふるえておりました

木のははしずかにちりました
とおくのとおくへいきました
あかいおべべにきがえして
木のははおしゃれでありました

木のははまいごになりました
さむいよふけでありました
とまるおうちもありません
木のははかなしくなきました

とおり雨

作詩 神沢利子

つめたいものが ほおにふれるので
ふと かおをあげると
きれいな雨がふっている
あじさいに みどりの木の葉に
銀いろにひかるほそい雨 ——
見あげると 空はあおく
陽はあかるく かがやいて とおり雨……
うす青い花の匂いの
ほのかにも漂うような窓ちかく
さあ 今日は何色の布を裁ちましょう
わたしは膝にめをうつし
心たのしく鋏を とりなおす

花のなかにねむる

秀村愛子の詞に佐藤真が作曲した甘く清らかな3拍子の曲。非常にポピュラーな女声合唱曲で、高校生の間でもよく演奏されます。

小さな坊やが 森で道に迷って
チューリップの中に 眠った

甘い香りの中で 夢みてるとき
夜がきて 花びらの戸がしまった

夜つゆが ぽとん と
柔かい髪の毛に落ちて
子どもが 目を見開いたとき
まっ暗な花の中には
銀のように 月の光が頭の上にもれていた

ナイチンゲールの声をききながら
子どもは
夜明けまで 寒さとおそれにふるえた

森にほのぼのと あけぼのの光さす頃
子どもは
一すじの道をみつけて
バラ色の朝もやの中に
いっさんに 走っていった――

ぼくたちの挨拶

この組曲は、大中恩・阪田寛夫の名コンビによって、日常最もよく用いられる言葉をもとにして作られた、一風変わった男声合唱組曲です。詩が比較的平易な言葉から構成されているのに比べ、曲の方は随所に臨時記号が使用され、転調、転調又々転調という大変難解な曲ではありますが、それは言葉の持つどんな些細な感趣の相違にも鋭敏に反応した作曲者の豊かな感受性の故でありましょう。就中、詩に於けるimaginationの跳躍は曲に於いても忠実に表現され、主旋律、和音の転回、リズム等が色々交錯し乍ら感情は極度に昂揚します。

下に「こんにちわ」と「おす」の詩を御紹介致しますのでよく御理解下さい。

こんにちわ

こんにちわ こんにちわ
こんにちわ ぼくら
こんにちわ 青い日々
草の穂が 萌えている
風も高く 光ってる

こんにちわ きみたち
こんにちわ 世界
おんなのこは 笑ってる
さかなたち およいでる

ぼくたちは 昆虫
きりきりと 飛び立ち
水晶のレンズにうつる
まっさらの宇宙に向い
あいさつをおくる

おす
窓を開けて おす
手を挙げて おす
駈けてって おす
逢う時は 生き物のあいさつ
どんな時にも おす

憎しみ合う日
羨み合う日
生き物たちは 何も言わず
さそりの目 もずの目で
互に一瞥するだけさ
即ちかれら 石となる
凍ってしまった時間の中で
化石と化石は 考える

こんにちわ こんにちは
こんにちわ ぼくら
こんにちわ きみたち
こんにちわ 青い日々
こんにちわ 世界

おれはもう 息が詰まる
あいつも うずうずし出した頃だ
さそりともずは駈け出した
化石の森から
風と光のひろっぱへ

そして
いつもの おす
逢う時は おす
ぼくたちは 宣言する
どんな時にも おす
おす おす！

“South Pacific” Choral Selection

「王様と私」「サウンド・オブ・ミュージック」でおなじみのオスカー・ハマスタイン二世、リチャード・ロジャースの名コンビによるブロードウェイ・ミュージカル「南太平洋」は、太平洋戦争たけなわの頃の、南太平洋のある島を舞台にした甘美なラヴ・ロマンスとして有名です。「南太平洋」には20曲近いヒット・ナンバーがありますが、今宵はこの映画音楽の中から五曲をクレイ・ウォーニックの編曲によりお送りいたします。

Bali Ha'i

夢の島バリ・ハイ島のすばらしさをいきいきと表わしています。後の「魅惑の宵」とともに「南太平洋」の中では最も有名なすぐれた作品です。ロジャースはハマースタインから歌詞を受けとるや、たったの五分間で作曲したというのですから驚きます。

A Wonderful Guy

“わたしは恋をしているの、こんなすばらしいひとに——”。南太平洋の青い空と海をバックに軽快なワルツが明るく、歡びにあふれて流れてゆきます。

Younger Than Springtime

映画では米軍中尉が現地娘に歌ってきかせるバラード風の愛の歌。甘い南国のムードの中に浸って歌います。

There is Nothin' Like a Dame

この海軍基地には明るい太陽も、きらめく星の光も、マンゴーやバナナもふんだんにあるが、ただひとつ不足なのは恋のお相手がいないことなのさ。人生には美しいものはいくらでもあるが、女ほど魅力のあるものはまたとない。“ご婦人が一番”。ヤンキー気質をユーモアたっぷりに歌った男声コーラスを今宵は女声でどうぞ。

Some Enchanted Evening

音楽ファンなら必ず一度は口ずさんだヒット・ナンバー「魅惑の宵」。いかにも南国の異国情緒にあふれた名曲で、演奏も非常に数多くなされています。

日本のうた

大阪外大には四十余年の歴史を誇る男声合唱のグリークラブがあり、同じ合唱サークルとして当コーラス部がありますが、混声合唱団というものは存在しません。男声合唱、女声合唱、ともにすばらしいものではありますが、経験者ならずとも混声合唱の味は又格別。今回の発表会におきまして私達の演奏をいっそう効果的にするために、と計画しましたこの混声合唱も意義あるものと信じます。グリークラブ定期演奏会を数日後に控え、練習にお忙しい中を参加くださいました十余名のグリーメンに心から感謝しつつ、今宵演奏いたしますのは、古い時代から続いて現在もなお歌われているポピュラーな日本のうた。どうぞ、外大初の混声合唱をお楽しみ下さい。

荒城の月

土井晩翠作詞、滝廉太郎作曲。平井康三郎の華麗な編曲でお送りします。

冬のメロディー

内村直也・中田喜直による「雪の降るまちを」と北原白秋・山田耕筈の「ペチカ」をメドレーでつづり、題して「冬のメロディー」。外大グリーの編曲です。

ちんちん千鳥

指揮者近衛秀磨の数少ない作曲のひとつ。北原白秋の童謡詩による美しい小品で昭和三年に発表されました。編曲は林雄一郎。

この道

北原白秋が北海道へ旅行したとき、札幌の町の広々とした落ちついた情調をとり入れてこの詩をつくりました。札幌の町を心に浮かべると、アカシアの花、時計台、馬車、さんざしの枝など、この詩に歌われたものがみな生きてきます。山田耕筈によって昭和二年に作曲されました。編曲は外大グリー。

最上川舟唄

日本三急流の一つ最上川を下る酒田通いの舟頭達によって歌われる山形県民謡。取舵、面舵の舟頭達の掛け声の合い間に悠長に流れる追分調のメロディーは魅力あふれるものです。清水脩作曲の最上川舟唄は、男声合唱としてその醍醐味のよさで名曲の中に入っていますが新たに作曲された混声合唱曲としての「最上川舟唄」もすぐれています。

大阪あべの

ユーゴー書店

TEL 大阪 06(621) 3579

萩家整形

併設 歯科部

大阪市北区梅田新道・梅田大映東入る100メートル

TEL 大阪06 (364) 8728・6268

クラブ生活

私達のクラブはちっちゃなクラブです。創設四年目、基礎だって固まってはいません。外大生の中には、私達の歌を聞いたことがない、というだけでなく女声コーラス部があるということすら知らない人がいるかもしれません。けれど、私達は精一杯歌ってきました。これからも歌ってゆきます。歌うことへの情熱だけはどんな大きなサークルにもまけないと信じていることができます。そんな私達のクラブ生活を少し紹介いたします。

昭和42年11月25日 学内合同演奏会

外大でただひとつの階段教室C₁で同じ音楽サークルであるクラシックのアンサンブルと合同演奏会を開きました。(前年は同じく外大邦楽部と合同演奏会。学内とはいえ私たちの演奏会、というのはこれが最初だったのです。)聞きに来て下さったのは、その10日ばかり前の定期演奏会にバックコーラスとして賛助したギタークラブの皆さんがほとんど。外大生は忙しいのネ、と嘆くことしきり。ギタークラブには感謝しながら…。



昭和43年2月19日 4年生お別れコンパ

私達のクラブは彼女達がつくったのです。悲しかった。初めての卒業生7名。でも大きな声で歌って別れました。現部長宅が傾くほどの…。彼女達を待っている新しい世界にむかって私達は大きく拍手しました。

昭和43年4月17日 サークル紹介

代表者だけ、と言われたのに皆でおしかけてクラブソングを歌いました。新鮮な瞳がこちらを見つめます。今年は女子学生が多そうだとほくそえんだけれど現在一年生部員はわずか2名。入学式当日の勧誘がすさまじすぎて、新入生にきらわれてしまったのかしら。

昭和43年5月18日 外大コンサート出演

C₁教室で6曲ばかり歌いました。新米のコンダクターはあがってしまって下がるのは腕ばかり。部員の方もコンダクターを助けるどころか大声で歌詞をまちがえて——。新入生はなんてえな!と叫びたかったこの日。

昭和43年7月29日～8月2日 夏季合宿(信州白馬村)

涼しい信州の家庭的な民宿で、それこそ小さなクラブでないと味わえないような合宿生活。でも朝、昼、晩、歌い続けました。あとは食べて寝るだけ。だのにその中に、皆の気持の中に、心が触れあって何かが生まれました。参加人数が少なかったのだけが残念でした。やっと学外発表会の話が具体化し、夏休み中も部長、指揮者、マネージャーは大阪中をかけまわりました。暑かった!

昭和43年11月2日 対プール学院短大コーラス部交歓会（外大）

対外活動皆無だった私達が初めて学外のサークルと交歓会をしました。ささやかなものでしたが楽しいひとときでした。こういう活動をもっと積極的にするように、とグリーの部長さんに励まされ、感激家の私達はうれし涙をこぼしたとかこぼさなかったとか。

昭和43年11月16日～17日 発表会前強化合宿

「みんなからだを大事にね、帰ったら必ずうがいをする。」が指揮者の口ぐせになりました。いくつものステージを私達だけで持つことができるものなのか、声が続くのかしら、と経験のない私達の前に不安は大きく広がります。けれどもそんな気持ちをふきとばしてがんばりました。

昭和43年11月19日 外大祭出演（四天王寺会館）

「こんな大きな舞台で歌えるチャンスはないんよ。」お客様は少ないけれど……。

昭和43年11月25日 外大邦楽部演奏会賛助出演（大阪屋ホール）

邦楽部も初めての学外演奏会です。これからも仲良くやっていこう。お琴と尺八に合わせて歌うのもなかなかええもんや。

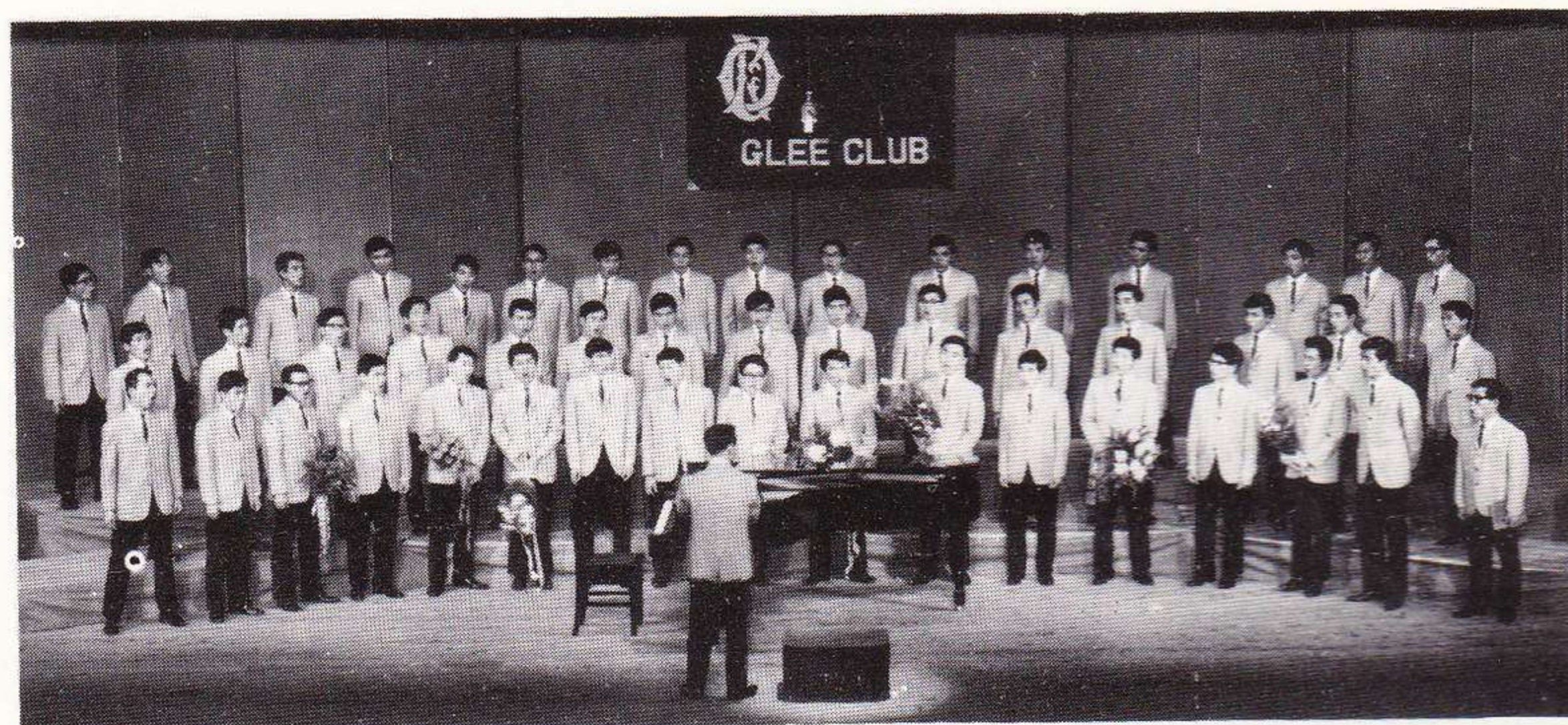
昭和43年11月28日 発表会（厚生会館小ホール）

私達は毎日毎日歌ってまいりました。昼休み、放課後。日曜日にも、とんで来ました。歌をこの上なく愛する人々の集まりから、音楽する喜びを肌を感じる集まりへ。今宵すべてが終った時、一体何が私達の中に残るのか、どんな感動があるのか、私達にはわかりません。けれども、精一杯歌うことだけは確かです。私達の音楽を少しでも、今宵おいで下さった皆様にお伝えできればこんなにうれしいことはありません。多くの人々の励ましが私達の不安をとりのぞいてくれました。心をこめて歌うだけです。

ぐりいくらぶ

ぷろふい〜る

いやはや『ぐりいくらぶ』
という所は大変結構な所で
して、兼好の時代より「物
言はぬは腹ふくるるわざな
り」と言いますが、実際、



「物言はぬは不健康」とばかりに、殆んど上級生・下級生の分け隔ても無くよく話しを致します。
先立っても、我が愛すべき女声コーラスの発表会に賛助すると言うと、とある新入生の日くこと、

「先輩！ 組曲第2番の『あいします』は格別感情が入りますナ。」

上級生としての役がら一応叱りはしたものの後で大笑い。(いや、いや！断じてその上級生某と下
級生某は笑いは致さず、大まじめでありました。)

とまあこのような所でございます。

しかしながら雄々しきこと文化サークル乍ら天下一。ぐるりの女性を下に見て自由の大地を闊歩、
闊歩。『女性などには興味無し。おおグリーよ、我が恋人よ！』は陳腐乍らも名文句。

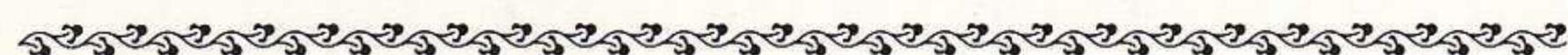
会場のお嬢さん方！

果して、大阪外国語大学グリークラブはかくの如き愉快的なクラブでございます。

ビバ! 4年生

ステージに並ぶ18名の顔をごらんください。初めての私達だけのステージ、みんなただ夢中です。でもよくごらんになって下さい。複雑な表情で歌っているのが7名。そうなんです。初のリサイタルにして最後のリサイタル、4年生。わがクラブを育てた功労者たち。どうです、功労者としての貫録もタツプリ!! じゃございませんか。

今宵、このステージに立つ彼女らの胸に浮かぶ想いは……。



番野三枝子

歌よ歌よ、歌こそ我が命! 歌なくして何の人生ぞ! なーんて言ってみただ、ちっともうまくならないで卒業しちゃうわ、私。でも今日はうれしいな沢山の男の人が見に来て下さって。シアワセ!

小阪登美子

無我夢中で歌ったあの時、歌声全体が私自身であった。あの陶酔感、充実感。大学生活の素晴らしき瞬間であった。

長崎聖子

初めての学外演奏会—この試みが来年も再来年も、ずーっと続くことを切に祈りつつ、今宵は精一杯歌いましょう!

伊藤博子

かの有名なる悪声で、せっかくの女声コーラスの美しさを不可思議なものにしてしまってゴメンネ……。

山田陽子

外大へ来て四年間の私の生活。よく学び、よく眠り、よく食べ、よく遊び、そして、よく歌い、よく歌い……。

波多野静枝

初めての演奏会。感激で胸つぶれる思い。

アルトもできない低音の私も必死でがんばろう。ビバ、女声コーラス!

田中由里子

クラブ結成以来苦節四年、やっと演奏会が開けた。バンザイ! 四年間がんばり通しているのに、いまだもって音が狂いっぱなし。指揮者に叱られて、しかられて……。

メンバー

女声コーラス部メンバー

部長 井上みどり
指揮者 番野三枝子
林 明子
マネージャー 矢上季子

林 明子 P₃ (大手前)
北山祥子 S₃ (丸亀)
北代すみ子 S₂ (大手前)
新家久美子 E₂ (田辺)

グリークラブ混声メンバー

Soprano

番野三枝子 D₄ (金沢二水)
小阪登美子 R₄ (茨木)
○長崎聖子 E₄ (東舞鶴)
矢上季子 T₃ (芦屋)
小林雅子 S₂ (防府)
望月美左野 R₁ (市西宮)

Mezzo Soprano

伊藤博子 D₄ (市岡)
○山田陽子 I₄ (奈良女附)
井上みどり B₃ (県伊丹)
長尾成子 C₂ (高松)
鉄本まり子 R₂ (米子東)
太尾佳代子 E₁ (城東)

Alto

波多野静枝 I₄ (雲雀丘)
○田中由里子 F₄ (桐蔭)

指揮者 梶江靖史 N₄ (福山葺陽)

Tenor

安藤雅之 E₄ (一宮)
○板村哲也 S₄ (甲陽)
藪庄治郎 T₄ (膳所)
柳楽行雄 S₃ (出雲)
柳沢長四郎 N₃ (野沢北)
藤原克司 R₁ (天城)

Bass

浜崎慎吾 R₄ (兵庫)
家城義男 H₄ (豊岡)
○野間清治 E₄ (茨木)
三沢広彦 C₄ (浪速)
西村裕 E₃ (御影)
竹井禎 E₃ (丸亀)

○印パートリーダー

B(ビルマ語) C(中国語) D(ドイツ語) E(英語)
F(フランス語) H(インド・パキスタン語) I(イタリア語)
N(インドネシア語) P(ペルシア語) R(ロシア語)
S(イスパニア語) T(タイ語)

第12回定期演奏会

'68 12. 3 (火) 6: 30 P.m. ~

於 ; サ ン ケ イ ホ ー ル

■ Sea Chanties.

■ 関 西 初 演
男声合唱組曲

「僕 達 の 挨 拶」

■ 古 典 イ タ リ ア 歌 曲 集

■ 黒 人 霊 歌 集 (全10曲)

「ニグロなら外大グリー」と言われてきた当クラブが
人種差別から生ずる苦難苦役に耐え「主」にひたすらに祈る
ニグロの生々しい魂の叫びを舞台に再現します。くすぶる
黒人問題を一考する契機となれば幸いであります。

入場料 ; 200 円 《当日券有ります》

そ の 他

入場券は現在好評発売中・入場券御入要の方は当クラブ部員、もしくは

下記まで御連絡下さい

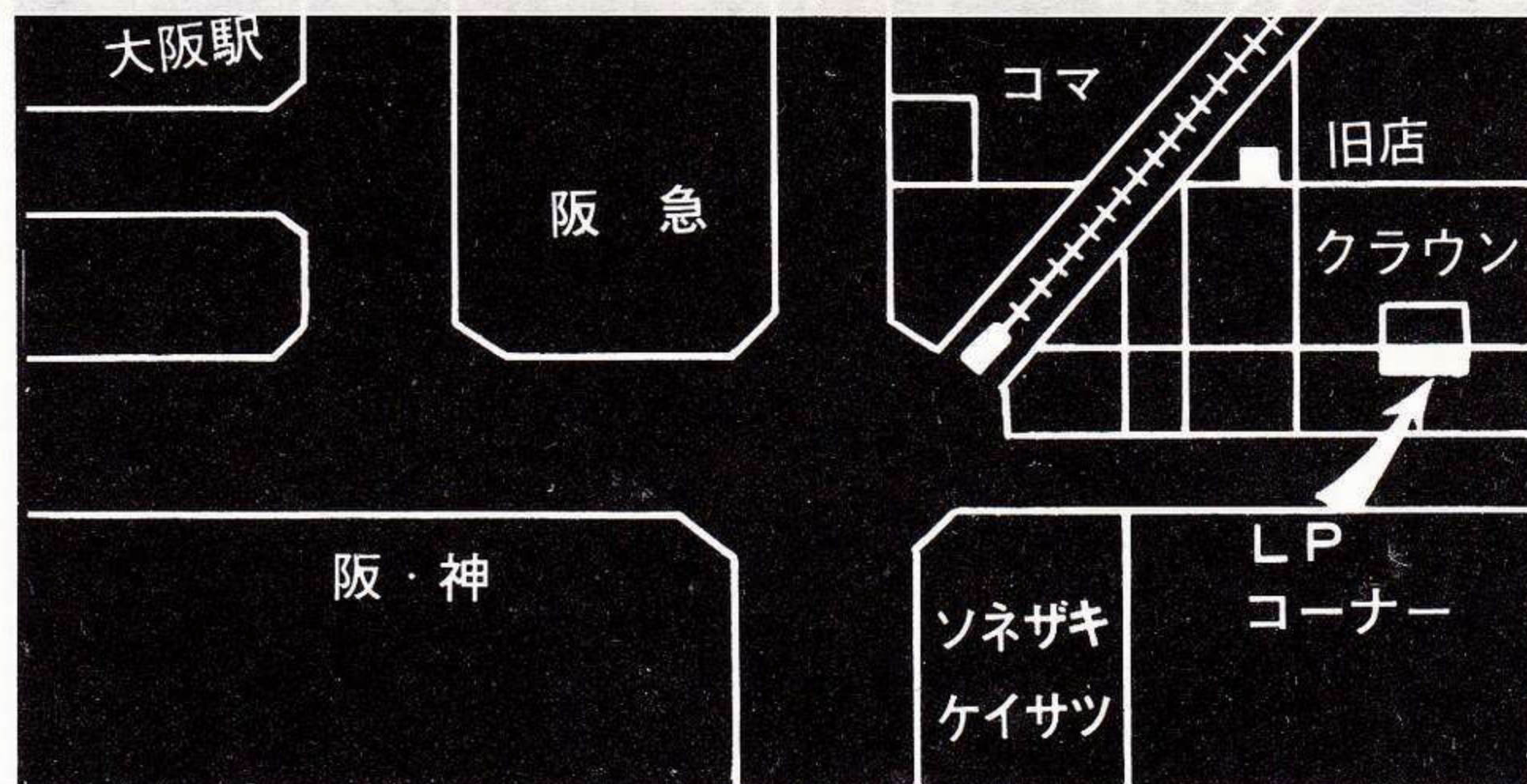
大阪市天王寺区上本町8丁目

大阪外国語大学グリークラブ

大阪外国語大学グリークラブ

御不用レコード

高価買取





音楽の美しさと格調のために



ヤマハピアノ

日本楽器心斎橋店

TEL. 211-8331~9